

# 南城を盛り上げる

2007年以降ブログ記事に書いてきたことをもとに編集しました。

## 目次

- a. 南城おこし 2
- b. フリーマーケット 17
- c. 南城の歴史. 19
- d. 海岸清掃 24
- e. 事件・工事 30
- f. 産物・農業 38

## 近所農家からゴーヤのプレゼント

30センチで規格外なので、市場出荷できないものとのこと。

田舎に住んで楽しく付き合っていると、こんないいことがしばしばある。



# a . 南城おこし

## 手作り南城

### 南城市と琉球新報の共催『地域フォーラム』

2006年に南城市はスタートした。そして、新生南城に向けて、いろいろな提案や動きが生まれた。2007年7月には、南城市と琉球新報の共催で、南城の『地域フォーラム』が開かれ、私もパネリストの一人になって、『手作り南城』を提案した。

事前にブログで、次のようなメモを書いた。

私のアイデアいろいろ。まずは箇条書きで。

- 1) 産業分野を超えて、新たな地域起こしへ。
- 2) 多様な集まりを、ミニでもいいし、短期のものでもいいからもっていく。そのためのたまり場・居場所めいたものがつくられるといい。新しくできた市の交流施設もその候補になるだろう。
- 3) 情報交流・交換の場をつくる。2) で書いたたまり場に掲示板をつくることでもいいし、市便りにそんな欄をつくるのもいいし、市がサポートして、ブログをつくるのもいい。地域FMなどが生まれるのもいい。
- 4) 多様なミニイベントを参加型で開く。それを市がバックアップする。たとえば子ども祭
- 5) スポーツ・エイサーに加えて、地域起こしにかかわるような青年会へと発展していくといい。
- 6) オールタナティヴ医療を含めて、多様な健康と癒しへのアプローチを豊かに育てていこう。
- 7) 下手な鉄砲、数打てば当たる」の気持ちで、いろいろなことに、市民参加型でとりくんでみよう。そのなかで、盛り上がるものがいくつかでてくるだ

ろう。そうしたものを育てていこう。

さらに数日後、次のようなことが頭に浮かび、ブログに書いて、当日の私の発言のベースにした。

### キャッチフレーズ <手作り南城>

手作りと対照的なのは、大規模に機械式に外から上からすすめていくやり方である。

手作りのいろいろなバージョンを書こう。

- 農漁業－加工業－サービス業を手作りでつなぐ。実際南城にある産業は、手作りでつくられたものがほとんどであり、それをいろいろな産業間で、手作りでつないでいく。
- 手作りで地元をつくる。以前のような公共投資の時代ではない。ハコモノをつくる時代は終わった。それに代わるものは地元の人々による手作りの企画である。幸い、南城には実に多様な人々（文化人をはじめ）が住んでいる。
- 手作りで健康。健康は一人ひとりの手作りでつくるのは当たり前だが、それを医療機関や自治体がサポートする。
- 手作りで観光。南城には大規模高層ホテルはないし、大規模ツーリストによる大団体旅行はない。手作り観光が圧倒的に多い。聖地・癒しのスポットも手作り観光でめぐるところである。
- 手作り移住。南城への移住者は、自分で住むところを探し工夫して住んでいる。大規模リゾート地・マンションではない。
- 手作り人生。コースやルールにのっかかって進むのではなく、自然・人々とのつながりのなかで手作りで人生を歩んでいく。

これらは、私の提案というよりも、南城市で実際に行われているものである。それにもっともっと光をあて、自信をもって、さらにそれを促進するような「地域づくり」、つまり「手作り南城」をおしすすめてはどうか。

はやりの「ハード」「ソフト」という言葉を使うと、南城には豊かなソフトがあるはずである。それをうんと引き出しつなぎ活用していくうねりをつくる

ことだと思ふ。

終了後には、次のような事をブログに書いた。

私もパネリストの一人だったが、いろいろと刺激されて、アイデアが頭を駆けめぐり、その場でおもいついたことを随分話してしまった。「手作り南城」のキャッチフレーズはかなり受けたようだが、討論の際にも、「手作りコンビニ」という言葉もつくってしまった。全国画一を売り物にするコンビニに対抗して、地元手作り型コンビニはどうであろうか、という提案である。

もう一つは、手作り観光としての修学旅行の新たな方向についてだ。近年、大型バスではなく、小グループでタクシーなどを活用するものが広がっているが、沖縄でもいくつかそうした例がではじめている。その際、小グループが事前に学習して自ら計画をつくる時に、地元と事前連絡をしあうようにもっていったらどうか。そして南城市地元の中高校がそれに対応する動きをしてはどうか。地域づくり部活創設という提案もそれにからんでいる。青年会が地域づくりにもっともっとかかわってはどうか、という提案もそうだ。

こんなことを提案したら、終了後の懇親会で、副市長をはじめ市役所職員などからさらにつっこんだ質問を受けた。といわれても、その時の討論で考えたことなので、細かいことは、今後のみなさんの模索創造が期待されていると応えた。

もう一つは、土地利用計画論議が盛り上がったことである。佐敷・大里が都市計画で住宅建設に強い制限があるのに比して、知念玉城はそれがないうなかで、差異が生まれている。国県の方針とからんで、知念玉城を含めてその利用計画策定が持ち上がっている。それに対して、全国画一的な発想ではなく、南城市独自の発想で計画策定にかかり、現在の知念玉城を佐敷大里に近づけるのではなくて、その逆に佐敷大里を知念玉城に近づける方向で検討中だとの市長の発言があった。

全国画一型地域開発ではなく、南城独自の探求が期待される。それは、私風にいうと、「手作り南城」である。

## 南城市まちづくり市民会議

### 「10の緊急的提言」「10のオンリーワン提言」

広報なんじょう22号(2007年10月号)のP8に、南城市まちづくり市民会議よりの提言書の記事が掲載された。これは、公募委員24名がまとめ、8月24日に市長に提出したものである。

「10の緊急的提言」「10のオンリーワン提言」をはじめ、とても興味深いものだ。

「10のオンリーワン提言」のなかには、スピリチュアリティ、ハーブ、人生サークルづくりなど、私の提案と重なり合うことがかなりある。7月のまちづくりフォーラムでの私の発言などが参考になったとすればうれしい。

### 提案「地域(南城)起こしアイデアコンテスト」 2009年1月4日

私は朝方、床のなかで、いろいろとアイデアがでてくることがある。だから、朝方のブログにはそんなことを書くことが多い。

今朝、地域起こし、南城起こしに、子どもたちをおおいに参加させるアイデアとして、南城起こしアイデアコンテストを思いついた。おおよそ、こんな感じだ。

1) U-15の部(15歳以下という意味)

U-20の部(20歳以下という意味)

一般の部

の三つに分ける。

2) テーマが広いと応募しにくいので、領域をセットする。無論、領域をまたがるものでもよい。

領域例

農業 漁業 観光 加工生産物 教育・学校 祭・行事 販売・営業 通信  
環境 健康 福祉 芸能・芸術

3) 各領域に、アイデアを求める1、2の事例を示す

例 加工生産物 島トーフを全国に売り込むアイデア

例 健康 市内にユニークな医療健康施設をつくり、人間交流の場になるようにする

例 観光 農業体験民泊を今以上に感動的なものにするアイデア

例 おいしいノンジュースを開発する

4) 各領域にその道のプロをアドバイザーとして2～3人置く。

その人たちにインタビューをしたり、あるいは、その人たちが働くところでミニ実習、インターンをしたりして、それらをもとにアイデアが考えることが期待される。

アドバイザーは、コンテストの審査員にもなる。このコンテストをきっかけに、「仕事起こし」「雇用」にもつながることを期待したい。

5) 小学校・中学校では、夏休みの自由研究を、このコンテストへの参加という形で設定することも考えられる。

6) 中学・高校での職場体験実習と、このコンテストを結びつけることも考えられる。

7) この企画の予算支出は少額でできる。市内の、商工会、青年会、婦人会、福祉施設、会社などの有力団体の支援で行うことができる。

市や教育委員会がいっしょにやるということであれば、大歓迎。

寄付金がたくさん集まれば、成績優秀者に奨学金を出すことも考えられる。

8) こんなアイデアは、南城に限らず、どの市町村でもできる。

9) 今、多くの子どもたちは、スポーツや芸能音楽などに夢を見つける例が多いが、地域の生産・文化・仕事に夢を見つける例が少ない。このコンテストを通して、地域で夢を追求できるきっかけにしたい。

地域で働く人々、企業の方々が、このアイデアをヒントにして、新たな業務展開ができるきっかけを得ることができるようになりたい。それが仕事起こし、雇用につながることを期待したい。

10) 私が使っている言葉でいうと、「地球起こし・沖縄起こし(地域起こし)・人生起こし」、さらに「仕事起こし」の課題に結びつく企画だ。

浜田久美子著『森の力』（岩波新書2008年）の第Ⅱ部第3章は「わが町で豊かに暮らし続けたいー森林セラピーで地域づくり」というタイトルで、長野県信濃町の事例を紹介している。

「平成の大合併」がきっかけとなって、「地方の町が生き残っていくには、地方交付税改革の先行きに左右されずにやっていけること、つまりは『自立』が必須だ」ということで、「全国で10本の指に入る自治体になればやっていけるんじゃないか」ということなかで、町の豊かな森をもとに話はすすんでいく。そのなかで、「地域づくりとして、また新たな産業として、住民と町行政で取り組んでいるのが森林セラピーだ」という物語がつくられていく。

その動きを築いていく中心的組織の一つとして「信濃町森林療法研究会」があるが、その会長には「主婦」になる。その就任「決め手は感性」だったという。

このストーリーを読みながら、私は南城市・玉城の地域起こしを思い起こしていた。平成の大合併、観光、大企業の立地はない、豊かな自然がある、などなど大変似ているからだ。

また、体験滞在型観光が一つのキャッチフレーズになっている南城が、その体験滞在にどれだけの中味をつくることができるか、ということで参考になることが多いからだ。

今、沖縄は観光ブームにわいている。しかし、それがいつまで継続するのか。その観光の主流は従来スタイルだ。無論、リピーター型が増えている。そのリピーター型を、さらに持続型共同型へといかにもっていくかが鍵のように思う。信濃町の観光は、スキーに支えられていた。そのスキーもリピーター型ではあるが、スキー人気の下降のなかで、大きな問題に直面している。同じようなことは、南城市にもいえそうだ。

とすると、継続型共同型への展開が問われている。その点で、始まったばかりの滞在型体験型観光がどのように展開していくかに、私は関心をもっている。

しばらく前に、「農業体験」目的の修学旅行生の受入が緊急要請されたことがあったが、我が家では、「家庭菜園」ならともかく「農業体験」は難しいこ

とお話して、実現しなかったことがあった。そんな話をしたら、「農業体験」そのものではなく、「類似体験」、たとえば近隣の散歩とかで、「やりくり」をした例をいくつも聞いた。それでも修学旅行生はかなり満足しているとのこと。

しかし、私には疑問だ。そして、最近の新聞報道によると、農業体験学習についての勉強会が開かれ、講師が、「農業体験」をごまかすのではなく、きちんとすることを強調したとのことだ。

長い目でみると、信濃町のように、森林セラピーなどの「売り」について、かなりきちんとした取り組みが必須になると思う。そんな意味で、この取り組みから学ぶことは多いと私は思う。

## 南城市市民会議拡大会議 2009年2月18日

3月29日のまちづくりシンポジウムに向けて活発な議論

私は、メンバーでも賛助会員でもないが、そのメンバーに「是非とも出席するように誘われて」参加。「誘われて」以上で、「命令」に近い印象だったが。

南城市は合併後3年になる。合併そのものは、難産だったし、この4町村の組み合わせはなぜ？などという疑問も広くあったようだ。財政的にいうと、「弱小」だからだ。

お金を投じて、市の発展をつくりだすというのは難しい。だが、いろいろな人材、土地の宝がいっぱいある。

だから、私は、2年前の「まちづくりシンポ」（南城市と琉球新報の共催）で、「手作り南城」を提案したのだ。

そして、実際、合併後、「半島芸術祭 in 南城」をはじめ、いろいろと「手作り」イベントがおこなわれるなど、なかなかの進展だと私は思う。22日の「ゆんたく庭」などもまさにその代表例だ。





また、今回のシンポジウムに向けて、市民全員にアンケートをとるなどは、なかなかのものだ、と思う。

そして、この動きをつくりだしてきた重要な一つが、公募委員でつくられた「南城市まちづくり市民会議」であり、その提言はすばらしいものがある。

だから、私は、今の時期は、こうしてでてきた提言などをもとに、また、さまざまなアイデアをもとに、まちづくり企画をどんどんすすめていくアクションの時期だと思っている。

そのアクションは、市全体で動くというのものもあるだろうし、また、あちこちで市民が自主的に開くというものであってよい。いろいろなことがあちこちで開かれ、そのなかで、いいものはどんどん広がっていくと思う。しかも、大切なことは、「お金がない市」だが、「アイデアと人材豊富な市」にふさわしい動きだ。

だから、シンポジウムを年4回開くというのは、とてもいいと思うが、それはさまざまなアクションと並行するものであってほしい。実際、そういう企画であるようだ。

そして、そうした動きをどんどん市民に情報してほしい。市の広報だけでなく、ブログなどのインターネット手段も活用してほしい。そうしたものを、市民の側からもどんどん発信する、そういう体質がどんどんできていく。そのことが望まれる。

そういう小さなものが、影響しあい、交流しあい、大きな渦がいくつもできていく、そういう「手作り南城」であることを期待している。

そのために、私も市民の一人としていろいろなアイデアをだし、私にできるアクションをしていきたい。

ということもあって、このブログで、南城大学構想、地域づくりアイデアコンテストなどのアイデアをだしてきた。

また、市民農園とか、市民会議提言にもあるタウンウォッチングなどの企画、また南城市には多くの強みがある「癒し」・健康の企画、そんなこととかかわって、「仕事起こし」の展開、こんなことが進むことを期待する。

といったことを、昨日、私は発言した。

# 市民が宝一まちづくりシンポジウム

## 新生南城市 3年間の総点検

2009年3月29日

昨日のシンポは、写真のように、開会 7 分前にはぎっしり。300名あまりの参加で玉城中央公民館ホールが満員になった。

どこかの動員があるわけではなく、特定の関心が集中するテーマはないが、全体としての南城市の今後の展開を論議するこうした集まりにこれだけの人が集まるというのは、すごいと思う。

論議のなかで私の関心をひいたことをいくつか列挙しよう。

1) 字一旧町村一市という3段階がまだ強く残っている。そこでのダブリに苦慮している老人会の話があった。旧町村おのおのの結びつきは、歴史的に深いものがあり、簡単には崩れるものではないし、また崩すべきものでもない。と同時に、組織のダブリをどう解消するかは課題となる。だから、地名表示も、たとえば玉城字中山という表記から、「玉城」を除いてはどうかという意見もでてくる。



と同時に、ダブリはないが、字からいきよに市とまでとなると、60もある字からでは、市は「遠すぎる」感じがある。そんなこともあってか、市組織に加入しない字組織も結構ある。女性会（婦人会）にはその傾向がみられるようだ。

似たこととして、旧大里では、地名表示と字表示の大きなずれをどう解消していくかが、課題となっているようだ。

2) 歴史的に長い蓄積をもっている青年会、老人会、女性会（婦

人会)などが、新たな活動分野に挑戦している。老人会ではこれまで中心的な活動であったスポーツ(ゲートボール、グランドゴルフ、ペタンクなど)に加えて、新たな会員になってくる「団塊世代」をひきつける活動内容を模索する。

また、エイサーなどの民俗芸能をもっていない字では、新たな活動創造が必要になっていると、青年会は語る。すでに独居高齢者宅訪問などの活動を展開している。

女性会では、議会傍聴など、新たな活動を開拓しつつある。

いずれの組織も新たな展開を模索試行しているわけだが、この他にも、旧来の農村型とはタイプの異なる新たな「都市型」組織が芽吹いていそう。旧来の字一(旧町村)一市というルートとは異なる、複数のものが並列する時代なのだろう。

講師の全国事例紹介のなかで注目されたのは、山形県朝日村のある自治会が子どもも含めて字の総会を行っていることだ。世帯単位だと、どうしてもある年齢以上の男が中心になる傾向を帯びざるをえない。

女性会代表が、女性の参加を強調していたが、そのことを促進する仕組みを字レベルからつくっていくことが大切だろう。

### 3) 新たな企画提案も渦巻いている。

映画ロケ導入

半島芸術祭に歴史散歩を組み込む

自然海岸を残すための積極的取り組み

地元農産物の加工商品の開発販売

歴史・文化の町づくり推進

民泊なども含め、複合型観光の推進

などなど

4) こうした企画提案に対して、市では、「あがいていーだプラン」として200万円を予算化し、興味ある企画の取り組みに最高額50万円の補助金をだして、推進するという。しかも、その審査員に中学生をあて、子どもたちの目線

で推進するという。興味深い。

また、地域活性化センターのようなものをつくっていいこう、という提案も出されている。

こうした参加型の新たな試みがこれまで以上に噴出していきそうな気配だ。それらが多様な試行錯誤をへつつ、宝物がいろいろと生まれてくることが期待される。

また、地域には多様な人材が豊富におられ、それらの人々を活用することが大切だ、という指摘もいくつかなされた。

5) 私も発言しようと思ったが、積極的発言者がたくさんだったので、遠慮せざるをえなかった。

発言しようと思ったのは、このブログでも繰り返し書いてきた、「南城大学づくり」を含め、地域づくり、とくに若者・子どもたちの地域づくりへの関与を高める方策にかかわってだ。

## 南城市はリピーター好みの観光地か

2011年4月2日

南城市に立地するホテル二つのうちの一つサンライズ知念が休止したという。その近くにあるコンビニも休止になったという。ちょっと寂しい感じもする。

新原ビーチ近くの海岸には、超高級ホテルが建築中だ。津波問題が懸念されるが。ペンションや民宿には、なかなか趣があるものが多いが、軒数は多くない。

南城市にくる観光客は民泊を除くと、圧倒的多数は那覇周辺のホテルに泊まる。5年ぐらい前までは、観光タクシー利用者が多かったが、いまでは、レンタカー利用者が多い。我が家の南側の道路は、昼間通行する自動車の半分近くがレンタカーになることも多い。観光バスで訪問する客は、アブチラガマと玉泉洞が中心だ。斎場御嶽、新原ビーチに少しはくるが。だから、このあたりは昼間の観光地だ。夜はほとんどいない。夜の331号線は、超ガラガラだ。

そんなところだから、このあたりに来る人はリピーターというか、「クロウト」

に近い人が多い。そんな方々が滞在体験型観光できるような条件整備をもっとすすめてはどうか。がんじゅう駅などは、そうした色彩を持つ拠点になっているが。

体験農園とか、工芸・音楽など文化的な体験を継続的にできるとか、を考えてよい。中高校生だけでなく、大人が2日以上滞在するような場になるといいと思う。

## インターネット販売システムを市がバックアップ 2010年11月3日

もう10日以上前になって、新聞の折り込みだったのか、市広報の折り込みだったのか忘れてしまったが、チラシで南城市が、「インターネット販売サイト」と提携して、それへの参加を募っていた。

私は、優れた地元産品が市外・県外・海外で販売されること、そのルートを広げることはいいことだと思う。だから、このチラシの試みはいいことだと思う。インターネット販売は、以前から近隣農家に話題にしていたが、コンピュータとかインターネットとかは「敷居が高く」、のる人は滅多にいなかった。

先週出かけた産業まつりにも、そうしたサイトを運営する会社のコーナーがあった。こうしたサイトは、大企業に流通を任せきると異なって、自分なりの工夫をうんと必要とする。それだけに面倒だが、やりがいがあるだろう。そのうち、そうしたサイトによらないで、自分たちでサイトを運営する人も出てくるだろう。

自治体も、そうしたサイト活用を奨励するだけでなく、独自にサイトを発展させる動きの先頭にたってほしい。それだけの視野と経験が必要だが、そうしたことをする気概・視野を自治体職員が持つことは、これからの時代、当然のことだろう。「そつなく」業務をこなすにとどまらず、業務を住民とともに創造していくのが、職員の役目というべきだろう。また、そうした住民の知恵を集め、広げる流れ・集まりも作りたいものだ。そんなことにブログを活用するのも面白いだろう。

※ 余談 産業まつりで、ある既知の農薬会社が、虫をもって虫を制する画

期的な「農薬」を紹介していた。化学農薬が大きな問題を抱える中で、この方向は一つの新たな道だろう。もしかすると、それは伝統的な農業のなかにあった知恵なのかもしれない。まったくの素人なので、よくはわからない。

## 中学生が審査 上がり太陽プラン 南城市ヒット作 2009年7月8日

7日付けのタイムス記事。そして、6月の「ユンタクナー」の記事で紹介されている。

地域起こしプランを中学生が審査し、選考された4団体に、南城市が補助金を出すというもの。

選考されたうち、「久高島留学センターの花いっぱい有機の里づくり」「ユンタク庭実行委員会の手づくり&ふれあい市イベントユンタク庭」は、私も知っているもの。

このブログ記事でも、若者や子どもの地域起こし参加について、何度か書いてきた。こういう企画がどんどんすすめられることを期待したい。また、こうしたことが、沖縄の「学力向上」に大変有意義なことを、とくに強調したい。

## 南城移動ユンタク

2～3年間続けた「たまぐすくユンタク」を、南城誕生にあわせて、バージョンアップさせた「南城移動ユンタク」第一回が、2007年7月21日知念のシャングリラでもたれた。

シャングリラは、3000坪の自然の敷地に、安和さん夫妻が手作りで何年もかけてつくられた庭園である。沖縄の自然の良さ、とくに「神・木・石」を生かしたものである。これまでみた沖縄の庭園は、本土や中国の庭園を模したものが多く、沖縄の風土に合わせたものは少なかった。そのなかで、この庭園は、新しい沖縄庭園の創造への記念碑になるような感じがした。

興味をもった私は、安和さん案内の庭園巡りに加えて、ユンタク終了後、もう一度見て回った。刺激を受けた。我が家の庭・畑の次のステージを考えるう

えで、いろいろなヒントをいただいた。

今回は、南城市で町づくりに燃えている方々がたくさん参集され、初対面の方が半数を越えた。19日の地域フォーラムに来られた方も多い。いってみれば、南城市づくりに「夢」「アイデア」「行動力」をもった方々のエネルギーをすごく感じる機会となった。また、これまでの玉城の方だけでなく、大里・佐敷・知念の各地域の方も参加されて、南城ユンタクとしての新しいバージョンにふさわしい集まりであった。職業・年齢・性別・居住地も実にさまざまである。

そんなこともあって、とくに決められた話題のないユンタクであるが、話題は南城市まちづくりに焦点があたった。そして、アイデアとか希望とかだけでなく、具体的なアクションにつながるような雰囲気をもつユンタクとなった。

そんなユンタクであったので、私も、19日同様、いろいろなアイデアが、「楽しく、思いつき風」にたくさん浮かんできた。

このユンタクでは、実に多様な方々と自由な雰囲気でも語り合えるのが楽しい。またまた次回が楽しみである。

その後数回開催したが、主に私の事情で、その後長期開店休業状態だ。

申し訳ありません。

## 『ゆんたくなんじょう』発刊

2008年6月25日

23日創刊準備号がでた。新聞用紙一枚の裏表だ。

サブタイトルが「沖縄初！100%  
“むる”市民手作り新聞」

南城市スタート時に、市政への提案を



行った公募委員のみなさんが、委員会終了後も自発的に集まりをもっているが、そのなかで生まれた新聞。私がかかわっている「タマグスクユンタク」「南城移動ユンタク」も書かれている。

編集部準備室は、花野果村に置かれている。

記事は、南城市内の地域情報、地域の若者奮戦記、市政への提案などさまざま。



## b. フリーマーケット

ゆんたく庭 2009年2月22日

こじんまりした茅葺き家に、いくつもの手作り店

南城市界隈の若者たちが、出店

南城織「実習」コーナーも

写真は、中心的な方々のうちのお二人

親子連れなどでにぎわう。常時30～40人が来店という感じ。



ゆんたく庭……南城市役所前で

2010年3月4日

顔馴染みが奮闘

ハーブ・アロマ談義も



3日午前より開始

数十のマーケットが並ぶ

出品は、女性向け、子ども向けが多いのは、フリーマーケットの特徴か  
男性向けは少ないし、男性の  
数も少ない。

でも、いつか変化があらわれるだろう。

私たちは、トイペ置き、CD  
置き、木製食器を買う

その後も、しばしば開設されている。



## C 南城の歴史

### 玉城村史-戦時記録編

2009年7月7日

すごい本である。大判で1000ページを超す。本格的な論文があるとともに、全字全戸を対象にした調査、また聞き取り記録もすごい。

写真のページは私が住む中山の住宅・戦災地図だ。日本軍の陣地、住民の避難壕、戦没者が出た世帯などが詳細に

記されている。この本から、何を見出せるか、考えることができるか、相当に時間をかける作業をしなくてはならない。いつかしたいと思う。できれば、早目に。たとえば、生死を分けた人々の行動に影響を及ぼしたものの、それには教育が含まれるが、それは何だったのか、といった問いを深めることもできよ



う。

多くの方々の目に触れられてほしい本だ。

### 玉城村史-移民編

2009年7月7日

先日、玉城村史を何冊か購入

した。そのうちの一冊が移民編だ。

写真は、そのなかのポリビアのコローニャ・オキナワの図だ。

玉城からも多いし、中山からの方もおられ、戻ってこられた方もいる。

沖縄にとって、移民のもつ意味は大きい。15、16世紀以前の海外交流が盛んな時代に匹敵するほどの規模だ。このことのもつ意味について、折をみて掘り下げ考えてみたいと思う。その点で、移民当事者が語り書いたものが多く収められている、この本はおおいに役立とう。

大判で800ページの本だが、研究的な意味だけでなく、近親者、知人で移民した方々の気持ち、また、世界のウチナンチュ大会を開けるほどのものウチナンチュは何か、を考えるうえで示唆に富む資料だ。



## 閉村記念碑とは珍しい

知念岬公園にある。

南城市合併のため

## 南城市域の米軍基地と自衛隊基地 南城市史 6

南城市を含めて南部地域は、基地は縁遠いという印象を持つ人が結構いる。しかし、この地域には重要な米軍基地があったし、自衛隊基地は現存する。

私自身もそれらの存在は知ってはいたが、正確なところは無知に近かった。

そのあたりの叙述を紹介しよう。

まず、親慶原にあった米軍基地について。

「秘密基地（CSG）知念キャンプの設置（中略）

朝鮮戦争の最中にCSG（混成サービス・グループ）＝知念キャンプとよばれる部隊が設置された。当初から秘密部隊といわれ、基地の機能やその目的は全く不明で、従業員の採用も厳重な思想調査のうえ行っていたといわれている。CSGは知念半島最大の職場となり、地域経済を潤すドル箱でもあった。

基地内の奥に隔離されたエリアがあり、そこでスパイ訓練や捕虜の尋問などが行われていたと噂されていた。朝鮮戦争やベトナム戦争では、秘密工作員らを使用する特殊用具が梱包されていたといわれている。復帰直前に米国のマスコミによってその実態が暴言され、CIA（米国中央情報局）の基地であることが明らかとなった。

一九七二（昭和四七）年五月一四日、知念キャンプは閉鎖され、従業員六〇〇人も全員解雇された。その後、跡地には現在、琉球ゴルフ場が建設され、基地経済からの脱却がはかられている。」 P 2 8 2

別の個所では、次のように記述されている。

「旧玉城村に在った米軍基地「知念キャンプ（後にCSG＝陸軍混成サービス群地区）」は、七二年五月一五日部隊が撤退。施設は「知念補給地区」として残ったが二年後の七四年一〇月一五日に全部返還された。

CSGは米軍占領後の四九年十一月に駐屯、ベールに包まれた謎の基地だった。七一年六月、CIA（米中央情報局）の非通常戦争（秘密工作）基地であることが、ニューヨーク・タイムスの報道で明らかになり物議を醸した。」 P 3 0 7

戦闘機墜落についての次の記述は、私にとっては初見のことだ。水源地接收など水問題にかかわる叙述もある。

「一九五五（昭和三〇）年四月二八日、濃霧の日、旧玉城村の下親慶原に米軍空軍機 B 29 の墜落事故が起こった。幸い人的被害はなかったが、家屋が破壊され、畑等にも多大な被害を受け二〇数件の賠償問題がおきた。近隣には住宅密集地があり、知念高等学校もあった。もし一步あやまっていたら被害甚大な事故となっていた。

水問題も住民を苦しめた。太平洋側に面する旧玉城村と旧知念村には湧水が多い。特に字志喜屋は多くの水源地を有し水量も豊富で、島尻有数の水田地帯として多くの米を生産していた。（中略）

戦後、志喜屋の水源地が親慶原にある米軍施設に接收され、ポンプアップで使用されたため水量が激減した。その為、水力タービンの復活は元より、農業用水にも事欠く事態が派生した。一九六三（昭和三八）年、沖縄が未曾有の干魃に襲われた時、米軍は水源地に金網を張り巡らし、農業用水への給水を拒み、農道まで閉鎖した。

農業用水の枯渇と道路閉鎖は地域住民の死活問題である。五月二十三日、区民は米軍への抗議行動を展開した。この騒動は与耶原署から二八人の警官が出動する事態にまで発展した。

一九七一（昭和四六）年、志喜屋水源地一帯は米軍の枯れ葉剤 P C P による汚染もあった。米軍施設からの排水は農業用水だけでなく、貴重な生活用水や飲料水まで汚染した。」 P 2 8 7

志喜屋の豊かな水源地の話は、志喜屋の人に聞いたことがあるが、ここに書かれていることは初めて知った。

自衛隊基地については、存在を知っている人は多いだろうが、どんな機能を

はたしているかなど、詳細を知っている人は少ないだろう。本書では次のように記述されている。

「復帰後、旧知念村と佐敷町に陸上自衛隊と航空自衛隊が配備された。陸上自衛隊知念分屯地（第三二五高射中隊）と航空自衛隊知念分屯基地（第一八高射隊）で、米軍のミサイル基地を引き継いだ。

米軍知念第一サイト（約十一万五、〇〇〇平方メートル）を七三年四月六日に一括引き継ぎ、同第二サイト（三一万二、〇〇〇平方メートル）は一九七三（昭和四八）年一月三十一日から七四年一月九日の間、三回で引き継がれた。陸自、空自がホークミサイル、パトリオットミサイルを装備し防空任務に当たっている。」P 306

平和学習で戦跡についての学習がすすんでいることと対照的に、近年まで存在した基地。現存する基地のことは意外に知られていない。そこで働いていた人など体験者は知っているだろうが、それ以外の人はいずれ、というかほとんど知らない。戦争体験の記録がすすんでいるが、こうした基地体験の記録も進めるべきだろう。

また、ホークミサイル、パトリオットミサイルはどんなもので、米軍時代の機能と現在の自衛隊での違いの有無など、知るべきことは多い。先日の「人工衛星」発射事態のなかで、南城市自衛隊基地のパトリオットミサイルが繰り返して報道された。

他に関連して言うなら、本島南東海域にある米空軍演習海域と嘉手納基地との間を往復する米軍戦闘機が、しばしば南城市上空を飛ぶ。とくに最新の戦闘機は、一万メートル（私の推理）もの上空でありながら、ものすごい爆音をもたらしている。

こうしたことも調べ学んでいく必要があるだろう。

## d. 海岸清掃

近隣の数軒の方々と、数年間、月一回の中山海岸清掃をした。その体験をし  
ばしばブログ記事にしたので、それらをもとに物語を綴ろう。

2008年8月30日

ビンガー通りのメンバーで、毎月最終土曜日に海岸清掃をはじめてから、2  
年半を越した。私はこのところ、忘れてたりしてしばらく参加してなかった。今  
日は久しぶりの参加。

4世帯7人で行う。夏休み終わりで、きっと「収穫」が多いだろうと思って  
いたら、なぜか少ない。多分、夏休み中の子ども会かどこかが清掃活動をした  
あとだからだろう。

朝7時開始だが、海岸に行く農道では、農業用トラックがいっぱい。朝の農  
作業の真最中なのだ。海岸に着くと、徹夜  
なのか、まだ海岸宴会をしているグループ  
もいた。

清掃の「収穫」 2008年11月29日

二年間の成果というべきか、ゴミ量が激  
減。以前はゴミ袋10以上だった。他にも  
色々なグループがやり始めたためもあるだろ





うし、きれいになるとゴミも捨てにくくなるということもあろう。

**2009年3月28日**

先月からのゴミの清掃工場への回収が滞っている。ゴミ置き場と決め込んで、勝手にゴミを置いていく人もいる。そんなゴミも私たちが市指定ごみ袋に入れ直している。ゴミをもってきた人はぜひとも持ち帰ってほしい。

### 流れついた多国籍ゴミ

**2009年4月25日**

多分船から捨てられたビンに、貝殻がいっぱいくっついている。風向きか潮流のためか、今朝は船からのものが多い。海岸での宴会のあとのカップ酒のカップもあり。



いよいよ、清掃作業のしがいが増える時期だ。

## 海岸宴会の後始末

2009年7月25日

燃えるごみ9袋一升瓶5本。カン・  
ビン類2袋

海岸宴会の激増

後始末しない人が多い



## 中山海岸がきれいになる

2009年8月26日

つい最近、沖縄県の出先機関、南城市の担当部局、商工会などの諸組織の方々200人ものボランティアの力で、大清掃が行われた。

ブルドーザーかなにかも使って、大がかりな作業が行われたようだ

清掃前、写真の護岸の大部分が、植物で覆われていたので、大変化だ。

私たちの海岸清掃グループには連絡はなく、直前の集落放送で知ったが、私は別件と重なって参加できなかった。

ということで、きれいになって、毎月最終土曜日朝7時からの私たちの定例は、今回はやる必要がなくなって中止した。





## ゴミがたまった中山 海岸

2010年4月11日

昨年夏の大規模作業  
後半年たった。

ごみ量がとてつもなく  
増えている。二人して久  
しぶりのゴミ拾い。

前ページ写真の半年  
前とは大違い。

## 海岸清掃、30分で5袋

久しぶりに二人でやる。  
すさまじくたまっている

2010年7月4日



## 中山子ども会の海岸清掃

2010年7月31日

今朝の中山海岸は大賑わい。数十人の子どもたちと親たち、そしていつもの私たちが集まっての大清掃。なぜか、女の子やおかあさんが多い。男の子、お父さんの今後の活躍が期待される。



低学年の子どもが質問する。

「なんでゴミ捨てるの？」

答えに困る私。「捨てた人に聞いてみたら」

親子が一緒だから、誰が誰の子かわかりやすい。

見かけない子どもがいると思ったら、夏休みでお泊まりに来ている従姉妹たちだ。

Uターンしてきた親子も。

ゴミ拾いしながら、人間関係が膨らむ

集めたゴミと一緒に記念撮影する中山子ども会



海岸ごみ拾い、『琉球新報』に掲載  
2010年10月19日

ごみ拾い仲間の隣人が切り抜いて  
見せてくれる。

写真のグンバイヒルガオは、近く  
の人が、個人の力で植え殖やしたも  
の。

挿し木で我が家ベランダにもある。

記事は、玉城区とあるが、私達は  
中山区海岸を中心にごみ拾い



## e. 事件・工事

### 国道331号線中山バイパス工事中止というニュース

2009年3月31日の18時のNHKニュースを見て驚いた。

現在進行中の志堅原から中山にかけての国道バイパス工事が中止ということだ。この工事が、「中山バイパス」という名称であることもはじめて知った。このあたりは、カーブがとても多い。とくに中山集落内は多い。

ということで、私たちが引っ越してくる前からバイパス道路工事の話が進んでいたようだ。中山集落の後の丘の中腹には、トンネル工事の入り口がつけられている。

しかし、私たちの引っ越し後、この工事の話については耳に入ってこなかった。昨年あたりから、中山入口あたりの工事が進行していることは見てきた。中山集落内での工事はどうなるのか、という話については、ほとんど耳にしていなかった。だから、「工事中止といわれても」といった感じである。



### 国道331、中山西から奥武入り口までの直線が開通

2010年12月13日

費用対効果問題で中止-再開があった日く付き区間だ。地元住民で使う人は少ない。むしろ交差点が増えて面倒になった感じがする。

12日開通式があった。

2010年9月27日夜、中山集落センターで、国道事務所による**国道工事の説明会**があった。私は、所用のため、はじめのうちだけ出た。

最初から白熱していた。

ことのはじめは20年前ということだ。だから、ここに住んで6年しかたたない私には知らないことが多い。わかったこといくつかを書こう。

国道331号線が、字堀川から志堅原に入るあたりから、字玉城に入るあたりまでの1.8キロメートル間の「中山改良」工事ということだ。

この区間の現在は、急カーブの連続だ。説明資料によると、この箇所には、「事故多発箇所300件以上」、または「事故多発箇所100件以上」の色が塗られている。そして、「平面及び縦断線形の改良による交通安全の確保により幹線道路としての機能向上を目的」とすると書かれている。

そして、「規格」は、3種2級(60km/h)、幅員12.0m(2車線)とある。

ここで、60kmというのは、かえって交通事故が増えるのではないかと私は懸念する。高齢者比率が高い、この地域では、最近話題になる高齢者死亡事故の多さのなかで、どうなのだろうか。

さて、説明資料は、住民説明向けに作られたものではなさそうだ。タイトルは、1枚目が「一般国道331号 中山改良」で、2枚目が「中山改良の事業見直し検討(案)」で、2枚目の見出しに、「[事業費見直しによる費用] 現事業費：85億円 →約3億円のコスト縮減→事業の見直し後：82億円」とある。おそらく、行政関係内部で使用する資料の転用だろう。

住民にたいする説明会だから、住民向けの資料を作成するのが当たり前だと思うが。

資料は、「事業費見直し箇所」を中心に作成されている。

西端の志堅原あたりの第一工区は「取り止め」

中山内の第3工区の「中山トンネル区間」は、[トンネル断面の縮小]とある。

同じく中山内の第3工区の[片側歩道区間]は、「歩道とりやめ」とある。400万円の「コスト縮減」だそうだ。「歩道とりやめ」が、目的として書かれている「交通安全の確保」になるのだろうか。理解不能だ。

そして、工事進行中の第2工区は、22年度中に供用予定(2/2)とある。

口頭では、奥武島の橋工事の完成と連動させ、もう少し早まるとのことであった。

今回の中心焦点は、中山集落内を通る第3工区である。現在の状況は、「用地買収促進」であり、[今後の予定]としては、平成22年度には[3工区の工事着手]、平成23年度には[3工区の工事促進]と書かれてある。

参加者の大きな疑問は、工事に伴う水対策であった。たくさんの方が話題に出したが、説明者は、「南城市などとも相談し、対策を考えて行きます」というものだった。それに参加者から激しい疑問が出された。

過去の経緯を知らない私には、中山地区での洪水問題が最近も重大課題になっている事は知ってはいたが、国道工事との関連はよくつかめなかった。

しかし、中山に生まれ育った人たちは、この問題が深刻であることをよく知っている。ある方の丁寧な経緯説明で、私もよく理解できた。私の理解範囲で書くと、こうだ。

※ 聞いたことをもとにして書いたもので、細部については自信がない。直接、関係者にお確かめください。

現在のゴルフ場など、中山の北側高台に大雨が降った際、かつては、中山だけでなく、富里、玉城を含む各字に分散して、水が流れていったため、洪水になるようなことはなかった。たとえば、西側の水は、ガルガーの方へと流れて行った。このシリーズの4でも紹介した、途中で滝になる川だ。

しかし、グスクロードができてから事態は変化した。舗装道路の両端が高く盛り上げられたため、水がまとまって、中山中心をとおりる川に集中し、洪水が発生するようになった。

後追い対策で、中山の中心をとおりる川の整備が行われた。

さらに、中山上部の農道整備工事が、それを加重した。その工事着手前に、当時の村長や施行業者に中山字民は問うた。グスクロードができて洪水が発生したのだが、今回の工事は、また新たな洪水を引き起こす可能性が高い。きちんとその対策工事をして、農道工事をすべきだと。

その問いに対して、すでに農道工事は施行段階にあるので、ということで水



問題対処なしに工事は行われた。

その後、やはり洪水は起きた。そして、後追い工事が行われた。

今回の国道工事も、三度目の洪水問題を引き起こす可能性は極めて高い。その対策なしの、工事説明はおかしいのではないか。

こうした問いだ。実際、今回の工事がかかわる川は、すでに洪水問題を引き起こしている。だから、「今後対処します」では、遅いのだ。

こうした字民側の説明は、大変道理に満ちたものだ。

ここで、私は所用のため、中座したので、その後の事はわからない。何か情報を得たら、またお知らせしよう。

もう一つ、解決しなければならない問題がある。それは予定国道が、字の聖地で、最大重要行事が行われるジーハンタの下をトンネルで通ることである。だから、字の行事を継続できるかどうか微妙なのである。行えるとしても、そこに出入りするごとに、国道の管理事務所の許可が必要になるということである。これについては、国道事務所側は何か案を用意しているようではあったが、私は聞かずに中座した。

こうした国や自治体との難問の交渉に出会う体験は、私は初めてだ。また、水問題は、我が家もかかわってくる。今後も注意深くのぞんでいきたい

## 水害対策と中山国道（331）工事

2011年3月6日夜、字中山の常会に、国道事務所と南城市担当者が来られて、昨年の説明会で、字側から強く出された水害対策についての回答の説明がなされた。

口頭説明をもとに、この記事は書いているのでおおまかになるが、ざっとこんな説明だ。流域の最大水量は時間当たり80ミリの降雨で計算して、4.7トンになるので、国道の下を通す排水管は、傾斜が18度あることを踏まえて、700ミリにする。それは、南城市が敷設している、その上部の排水管にも対応している。並行することになる現国道の下の排水管は150ミリあるが、それはそのままになる。

住民側からは、現在の南城市の排水管では、すでに2回も溢れ、下流に水だけでなく、土砂も流れてしまい、大変なことになった。建設する国道の下の排水管が700ミリでは、再び溢れだす危険が高い。もっと大きくしてほしい、との声が出た。その間、たくさんのやりとりがあって、最後に、国道事務所が、大きくするかどうか検討するという事になった。

ここからは私の意見。80ミリという雨量は、糸数にある観測システムのデータが使われている。しかし、傾斜地にあつて強い風が直接吹き付ける中山での豪雨の際は、局地的に、それよりさらに多い雨量になることがある。実際、近年では2回そういうことがあつて、溢れた。したがつて、排水管を大きくすることは不可欠だろう。

国道建設は全国基準で行われ、局地的要因が無視される傾向がある。後で災害が起こつても、基準にのつとつて工事をおこなつた、という責任逃れが行われたりする。

地域の実際に合わせて、建設は行われるべきだと、思う。

加えて、近年の連続的な異常気象のもとでは、80ミリを越す雨が局地的に降る事は、以前よりさらに高い頻度で起こるだろう。

今、南城市は、津波対策を含めてハザードマップづくりなど、災害対策が進行中だ。地域の現実と住民体験にそくした対策、そして、より厳しい条件を前提にした対策が必要なように思う。後手に回らないために。



この国道敷設の準備工事は、すでに始まっているようだ。中山地内のうねりくねつた国道は、一部トンネルだが、比較的まっすぐな道になるようだ。この道ができる

と、どんな変化が起きるのだろうか。

前ページの写真は、国道建設準備中の用地だ。

右の写真は、その工事が進展し、建設工事のための導入路の建設工事中の 2011 年 4 月 24 日に撮影。



最近開通した奥武入り口から中山までの個所をさらに延長して、中山の裏手を一部トンネルにしてまっすぐ伸ばす工事だ。

写真の上の方に、工事現場が写っている。写真の一番高いところが、タマグスク。

## 農道舗装工事完了

2009 年 10 月 15 日

「地域活性化事業」予算で。  
正面の森の中に我が家が見える。  
私たちが海岸に出る時使う道だ。



## 大雨で海岸沿い農道と畑が冠水

2011年10月4日

雨が一時的に収まった時の散歩で  
出会う。

農家の方から、大雨の時の冠水で困  
っているという話を聞いてはいたが、  
実際に見るのは初めて。役所の方だ  
と思うが、調べに来ておられた。

ゴルフ場などの高台の水が一気に  
くると、排水ができなくなるの  
だろう。海岸への排水路が  
つまって機能しなくなっている  
ためでもあろう。

2012年に入って、海岸への排水溝  
の補修工事がなされた。

しかし、2012年5月の台風時に、海  
の砂が3ヶ所排水溝の入り口を埋  
めてしまった。問題解決には難題  
が重なる。



## 突然レール出現…奥武島・ 橋工事

2010年5月13日

鉄道敷設かなど、と期待してしま  
う、とは冗談。大型の橋梁敷設  
のために必要らしい。

もずくそば「クンナトゥ」の入  
り口。



## 新しい奥武橋の遠景

2010年12月20日

かけ替えられた新しい橋を、玉城海岸から写す。左側が奥武島。

12月12日に開通式があった。



## f. 産物・農業

さとうきび収穫光景

2012年2月23日

今年のサトウキビは、近年にない不作だという。いつもは12月には始まる収穫作業も、今年は年明けからだ。そして、2月下旬に入った時点で、我が家から見渡せるサトウキビ畑は、9割も収穫完了だ。加えて、TPPの影響が出てくると、どうなるのだろうか。

近隣の収穫期の写真を並べてみた。

ここに住み始めて7, 8年目になるが、ハーベスターによる収穫が増加している印象だ。収穫に人手をかけることが難しくなったのだろうか、いろいろな要因があるのだろう。

サトウキビ収穫後は、畑の見通しがよくなるが、ザワワの音が聞かれなくなる。写真は、ハーベスター作業。2月中旬。我が家のベランダから撮影。





2009年のNHK「鶴瓶の家族で乾杯」番組で、83歳のおじいさんが、鶴瓶にむかって、ハーベスターにできるだけ頼らずに自分で収穫していると自慢していたが、鶴瓶

は、ハーベスターがなんのことかわからずに聞いていた。

上は、**人手作業風景**。2月後半。

### 右はサトウキビの**植え付け**

サトウキビの収穫を知っている人は多いが、植え付けを知っている人は少ないかもしれない。溝を長く掘って、短く切ったサトウキビを植えつけていく。

収穫したサトウキビの根から伸ばしていく方法もある。確か株出しといったはず。

この写真は、近隣のサトウキビ畑で撮影したもの。





## かかし

本物の人間と間違えた。  
なかなかの傑作だ。

## 収穫間近の電照菊

本土の彼岸を前にして、3月に入ると近隣の農家は作業に忙しい

つぼみがいっぱいだが、すでに色づいているものも

向こう側のビニールハウスも菊だ。ビニールハウスでのものと、そうでないものがある。







## マンゴーのハウスのビニール撤去作業

つい先ほどまで覆っていたビニールを、台風接近でとりはずす。

農家は忙しい。

## 双子のゴーヤ

近所の農家からいただく。

花粉の時から大切に育てる、とのことだ。

## 双子ゴーヤを切る—メガネ！





## おいしい曲がったキウリ

近所の方から頂く。美味しい。

私は以前から曲ったキウリが好きだ。美味しいし、これがキウリの自然だからだ。我が畑でも、ほんの少しだが収穫したが、すべて曲っている。これが自然なのだ。

しかし、お店では、不自然にまっすぐのものしか売られ

ていない。たまに、曲ったものが、1/3以下の値段で売られていることがあるが。農家の方々は、曲ったものは、規格外で市場に出せなくて困っている。

流通のあり方の問題だし、まっすぐのものが普通だと思わせられている、消費者の感覚が変わって成長することを期待する。

キウリだけではない。大半の農作物が同じような問題を抱えている。



## うりずん豆

近所から、大量のうりずん豆(四角豆)をいただく。お店で買うと、大変な額。

農家が栽培して、市場に出すときは、大変安くて困っているとのことだ。

さて、この大量のうりずん豆をどうするか。おすそ分け作戦をするしかない。その後、我が畑でも栽培し、夏から秋にかけてたくさん収穫できるようになった。発芽させるのは少々面倒だが、伸び始めて、棚に伸びてくれば、後はどんどん収穫状態になる。収穫し損ねて、硬くなると、種にするしかない。2011年は種が取れ過ぎた（苦笑）。

でっかいバナナ…玉城焼でいただく。



そのうち、一本が熟す。新鮮な味。大きいけど、三尺バナナと変わらず美味しい

レンブをいただく

隣地にはでっかいレンブの木がある。大豊作でいただく。りんごを薄味にした感じ。





## おやき

### 花野果村特製

社長のお母さんが長野出身。紅芋、ゴーヤ、パパイヤなどが練り込まれている。

## 移転新装開店の花野果村

2012年1月6日、花野果村は、これまでのところから国道331号線を1キロ足らず西に行ったところに移転し、新装開店した。すぐ近くにレストラン兼飲み屋の南城、そしてカフェ黄果報（くがふ）がある。1分足らず西に行けば、ちんすこうの新垣菓子店工場があり、雄樋川の橋がある。

私たちは、花野果村との付き合いが8年になる。写真は、中心になって運営している大城浩明さんと花野果村。

店の雰囲気は、以前のようなどだっ広さはなく、程よい広さで明るい雰囲気。

店の前で、浩明さんと男性数名とゆんたく。その時に、タマリユウを求めていたお客さんが来訪。在庫がないというので、「我が家にはいっぱいある」と話した



ところ、「是非に」ということで、我が家にまで来ていただいて、生えているのを数株取りだして差し上げ、喜ばれた。このあたりでは、こんな出会いが多い。

近くで、コーヒー数十株を栽培している方もおられた。花野果村にも出品しておられるが、今年は台風でやられてしまったとのこと。

## 雨上がりの南城ひまわり畑

2009年6月

うわさのひまわり畑。

すぐ近くなのに、いきそびれているうちに、雨続き。ちょっと晴れ間がでたので、行った。

もう、種がいっぱいの大輪もあったが、写真のように満開状態のものがほとんど。

ひまわりだけあって、同じ方向を向いて美しく咲いているのが印象的。30年前、西原の小波津団地に住んでいたころ、我が家のひまわりが高さ3メートルを超えたのを思い出した。





## 奥武島のイカ干し風景

写真の背景は、私が住む中山と  
タマグスク

## 玉城海岸夕方の網漁

簡単そうだが、話を聞くと、な  
かなか難しい。うん十年のキャリ



アが必要なようだ。大潮満潮時、または引き始め  
がいいそうだ。しかも、暗くなる前、海面が見え  
る時間だそうだ。海面を見て、魚の群れを見つけ  
てからするのだそうだ。昨日は大漁で、今日はさ  
っぱりだそうだ。



## おこぼれの魚をいただく…ぼらとチヌ

さっぱりの今日だけど、それでも獲れている。  
今日の夕食は終わっているので、明日味わう  
つもり。